

【B年】

復活前主日

人類を深く愛し、救い主、み子イエス・キリストをこの世に遣わされた全能の神よ、み子はわたしたちと同じ肉体を取り、己を低くして死に至るまで、十字架の死に至るまであなたに従われました。どうかわたしたちに恵みを与えて、み子の苦しみの模範に従わせ、またそのよみがえりにあずからせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はイザヤ書第四五章二一節から」

21 意見を交わし、それを述べ、示せ。だれがこのことを昔

から知らせ
以前から述べていたかを。それは主であるわたしではな

いか。わたしをおいて神はない。正しい神、救いを与える神は

22 わたしのほかにはない。
地の果てのすべての人々よ
わたしを仰いで、救いを得よ。わたしは神、ほかにはい

ない。

23 わたしは自分にかけて誓う。わたしの口から恵みの言葉
が出されたならば

その言葉は決して取り消されない。わたしの前に、すべての膝はかがみ

すべての舌は誓いを立て

24 恵みの御業と力は主にある、とわたしに言う。主に對し
て怒りを燃やした者はことごとく

主に服し、恥を受ける。

25 イスラエルの子孫はすべて

主によって、正しい者とされて誇る。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第二十二編 一節〜十一節

- 1 わたしの神、わたしの神、どうしてわたしを見捨てられるのですか＝ どうして遠く離れて助けようとはせず、わたしの叫びを聞こうとされないのですか
- 2 神よ、昼、わたしが叫んでもあなたはこたえられず＝ 夜、叫んでも心は安らぐことはない
- 3 あなたは聖なる方＝ イスラエルの賛美を住まいとされる
- 4 わたしたちの先祖はあなたを信じ＝ あなたは彼らを救われた
- 5 彼らは助けを求めて聞き入れられ＝ 信じて恥を受けろことはなかった
- 6 わたしは虫けらであって人ではない＝ 人にそしられ、民に侮られる
- 7 わたしを見る者はみな笑い＝ わたしをあざけつて言う
- 8 「彼は主を頼みとした。神が救いに来ればよい＝ 神が彼に心をかけているのなら、救い出せばよい」
- 9 あなたは母の胎からわたしを取り出し＝ その乳房でわたしを育てられた
- 10 この世に生を受けたときからわたしはあなたのもの＝ 母の胎にいたときから、あなたはわたしの神
- 11 わたしから遠く離れないでください＝ 悩みはわたしに迫り、助けにくる者もない

使徒書

朗読者 「使徒書はフィリピの信徒への手紙第二章五節から」

5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで、従順でした。9 このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。10 こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、11 すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マルコによる福音書第十五章一節以下に記され

会衆 「主に栄光がありますように」

会衆 「主に栄光がありますように」

1 夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老や律法学者たちと共に、つまり最高法院全体で相談した後、イエスを縛つて引いて行き、ピラトに渡した。2 ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」と答えられた。3 そこで祭司長たちが、いろいろとイエスを訴えた。4 ピラトが再び尋問した。「何も答えないのか。彼らがあのようにお前を訴えているのに。」5 しかし、イエスがもはや何もお答えにならないかったので、ピラトは不思議に思った。

6 ところで、祭りの度ごとに、ピラトは人々が願ひ出る囚人を一人釈放していた。7 さて、暴動のとき人殺しをして投獄されていた暴徒たちの中に、バラバという男がいた。

8 群衆が押しかけて来て、いつものようにしてほしいと要求し始めた。9 そこで、ピラトは、「あのユダヤ人の王を釈放してほしいのか」と言った。10 祭司長たちがイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからであ

る。11 祭司長たちは、バラバの方を釈放してもらおうように群衆を扇動した。12 そこで、ピラトは改めて、「それでは、ユダヤ人の王とお前たちが言っているあの者は、どうしてほしいのか」と言った。13 群衆はまた叫んだ。「十字架につける。」14 ピラトは言った。「いったいどんな悪事を働いたというのか。」群衆はますます激しく、「十字架につける」と叫び立てた。15 ピラトは群衆を満足させようと思つて、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打つてから、十字架につけるために引き渡した。

16 兵士たちは、官邸、すなわち総督官邸の中に、イエスを引いて行き、部隊の全員を呼び集めた。17 そして、イエスに紫の服を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、18 「ユダヤ人の王、万歳」と言つて敬礼し始めた。19 また何度も、葦の棒で頭をたたき、唾を吐きかけ、ひざまずいて拝んだりした。20 このようにイエスを侮辱したあげく、紫の服を脱がせて元の服を着せた。そして、十字架につけるために外へ引き出した。

21 そこへ、アレクサンドロとルフオスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。22 そして、イエスをゴルゴタという所——その意味は「されこうべの場所」——に連れて行った。23 没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはお受けにならなかった。24 それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、その服を分け合った、

だれが何を取るかをくじ引きで決めてから。

25 イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。26 罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。27 また、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右にもう一人は左に、十字架につけた。29 そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、30 十字架から降りて自分を救ってみろ。」31 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒にあって、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。32 メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。33 昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。34 三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになつたのですか」という意味である。35 そばに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と言う者がいた。36 ある者が走り寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見てみよう」と言いながら、イエスに飲ませようとした。37 しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。38 すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。39 百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」

と言った。

司祭 「主に感謝」
会衆 「主に感謝します」